



担当者から工事の説明を受ける2人の中学生

## 中学生が体験学習会

名取・関上の復旧復興工事現場

東北地方整備局仙台河川国道事務所は13日、東日本大震災で津波被害を受けた名取市関上で、中学生を対象にした復旧復興工事の体験学習会を開いた。復興の現場を実感してもらうだけでなく、若手人材の不足に悩む建設業界に興味を持ってもらうのが狙い。

学習会は名取川の防波堤工事現場であり、仙台市柳生中2年の鈴木悠矢君(14)と田中秀汰君(14)が参加した。2人は施工業者の説明を受けながら、クレーンを使った重さ2トンのブロックの敷設作業を見学した。

作業員1人で位置を確定できる最新の測量機器を実際に操作し、地面に埋めたカプセルを探し出すゲームにも挑戦した。2人は「建設工事が社会に貢献できる仕事だと実感した」と話した。

仙台河川国道事務所の担当者は「建設業界は若年層の人材不足が深刻。今後も定期的に学習会を開催し、関心を持ってもらうきっかけにしたい」と説明した。